

■令和6年度版『ひろがる言葉 小学国語』3年 年間指導計画・評価計画(案)

〔第3学年及び第4学年〕目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

(3)言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	つたえたいことを、はっきりさせよう じこしょうかいビンゴゲーム 教科書:P8 ◇「じこしょうかいビンゴゲーム」をもとに、互いの共通点や相違点に着目しながら興味をもって話したり聞いたりする。 ☆学習用語:伝える／自己紹介／カード／発表	話聞	1	1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)「じこしょうかいビンゴゲーム」とおして、互いを知り合うという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 ＊ビンゴカードの見本を提示するとよい。 2. カードを書く。 (1)好きなものや得意なことをカードのます目を書く。 ＊カードには、短い言葉で書くことを伝える。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)
					2	3. カードを使ってビンゴゲームをする。 (1)グループで、カードに書いたことを一人一まずずつ発表し合い、同じ場合は丸をつける。列がそろったら「ビンゴ」と言う。 ＊P9の「ビンゴゲームのあそび方」を確認する。 ＊全員が発表したら、グループを変えてビンゴゲームを続けることを確認する。 (2)ビンゴゲームが終わったら、カードをもとに友達と話す。 ＊ビンゴになることにより、共通点に着目しやすい。共通点を中心に交流させるとともに、相違点を取り上げて紹介し合うようにする。 4. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。	【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで日常生活の中から話題を決め、学習の見通しをもって、「じこしょうかいビンゴゲーム」で紹介し合おうとしている。
1学期	4月	2	楽しく声に出して読もう かえるのびよん 教科書:P10 □言葉との新鮮な出会いをとおして、そのリズムや響きを味わい、音読を楽しむ。	読む	1	1. 題名を最初に確認して、各連の最初の1行と同じであることを知る。 2. 教師の範読を聞いてから、一人読み、一斉音読をする。 ＊「かあさん」「とうさん」「じどうしゃ」「しんかんせん」「ひこうき」「おひさま」をどのように跳び越えたのかをイメージを想像しながら、「びよん」の読み方を工夫して音読する。 ＊各行の音数が揃っていることを理解するために、音読しながら手を叩く活動を取り入れて、音の数に意識がいくようにするとよい。 ＊「びよん」が跳び越える対象が、物理的に大きくなっていき、四連では「きょう」「あした」と抽象化されていくところが、現実にはありえないできごととして示されている。それが「びよん」の回数に対応していることに気づかせる。指さしなどの動作を取り入れて、理解できるように配慮する。 ＊どのように「とびこえ」たのか、「とびこえ」ている姿や様子などをイメージできるように、動作化を取り入れてよいことを知らせる。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)
					2	3. グループなどに分かれて、動作化やせりふなどを工夫して音読する。 ＊目線を工夫したり、びよんの動作やせりふなどを考えてグループで演じながら音読させたりする。 ＊「きょう」を飛び越えて、「あしたのほうへ」きえる、というイメージは、動作化は難しいので、授業の最後に「どんなことを感じたか」を発問して、イメージを共有する時間を取るとよい。	【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像し、学習課題にそって工夫して音読しようとしている。
1学期	4月	9 (書く2)	ー 登場人物の行動をとらえて、お話の気に入ったところを見つけよう 白い花びら 教科書:P14 □登場人物の行動を思い浮かべながら読み、物語の気に入ったところを見つける。 ★ここが大事:登場人物の行動や気持ちをとらえる ☆学習用語:文／漢字／主人公／作家／物語／場面／登場人物／性格／したこと／比べる／気持ち／発表／言葉／理由／説明／様子／移り変わり／お話	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊登場人物の行動を捉えて読み、お話の気に入ったところを見つけて紹介し合うという単元の見通しをもたせる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ)
					2・3	<たしかめよう> 2. 登場人物を確認し、作品の全体像を捉える。 (1)登場人物の人数や場面の数を確かめ、できごとの全体を捉える。 (2)女の子に対するゆうたの気持ち、始めと終わりでどのように変わっているかを考え、発表する。 ＊教科書P31「ここが大事」を確認し、登場人物の言ったりししていることをもとにして、行動や気持ちを捉えるようにさせる。 ＊女の子が登場する場面の、様子や会話文の内容を手がかりに考えさせる。 ＊女の子に対するゆうたの気持ちの移り変わりがわかるように、ノートなどに表などの形でまとめさせてもよい。	◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3オ)
					4～7	<くわしくよう> 3. 登場人物の行動の理由と気持ちを捉え、登場人物の性格について考える。 (1)ゆうたとかずきは、どのような性格の人物か、したことや話したことを比べて読み、違いを見つける。 ＊ゆうたとかずきは会話や行動が対称的であるため、比較することでそれぞれの性格を想像しやすくする。 ＊同じ物事に対して二人が異なった対応をした場面を取り上げるようにする。 (2)女の子について、不思議だと思うところを見つけてノートにまとめ、紹介し合う。 ＊女の子が登場する場面の様子や会話文の内容を手がかりに考えさせる。 ＊教科書P30の「ことば」については、学習活動の中で適宜取り上げる。	【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)
					8	<まとめよう> 4. 物語の中で気に入ったところを、ノートに書く。 ＊なぜその部分が気に入ったのか、叙述をもとに捉えたことから理由を説明させる。	【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					9	<つたえあおう> 5. 気に入ったところについて、その理由とともに伝え合う。 <くり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の行動や気持ちについて考えるときに気をつけたことを振り返る。 (2)物語の中で気に入ったところを伝え合って感じたことを振り返る。	【態度】 ・すすんで登場人物の行動や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像し、今までの学習を生かして物語の気に入ったところを理由と共に伝え合おうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	3 (書く3)	毎日の生活の中での「発見」を書きためよう 「発見ノート」 教科書:P32 ■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。 ☆学習用語:発見ノート／見出し／漢字／理由／話題	書く	1・2	1. P33の「発見ノート」を読み、具体的な書き方を理解し、身のまわり取材して発見したことを「発見ノート」に書く。 2. 集めたものを並べ直す。 3. 書いた内容を確認し、一枚を完成させたら、同じ要領で複数のノートを作る。 ＊ここで作った発見ノートは、適宜、書き続けていくようにしたい。このあとで学習する単元『クラスの「生き物ブック」を作ろう』や、下巻の創作詩の教材『はっとしたことを詩に書こう』、同じく下巻単元『強く心にのこっていることを』の話題、題材を選ぶ際に活用できるように設定している。自分の「発見ノート」を見返す楽しさを味わわせたい。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ)
					3	4. 友達とノートを交換し、お互いのノートを読み合って気づいたことなどを話し合う。 ＊「いつ」「どこで」や「発見だと思った理由」「不思議だと思ったところ」などがわかりやすく書けているかなどを確認させる。 ＊それぞれの内容が項目ごとに書かれて、わかりやすくなっているかなども確認させる。 5. 学習を振り返る。 どんな工夫をして、「発見ノート」を作ったか振り返る。	【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって「発見ノート」を作ろうとしている。
1学期	5月	2	言葉の広場① 国語辞典のつかい方 教科書:P34 △国語辞典の引き方を理解し、辞典を活用する。 ☆学習用語:動きを表す言葉／国語辞典／見出し語／様子を表す言葉／五十音順／清音／濁音／半濁音／会話／組み立て／構成／のばす音／促音／長音／拗音／説明／つめ／はしら	言語	1	1. 学習の見通しをもつ。 ＊教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. 教材文を読んで、国語辞典の引き方を理解する。 ＊言葉の意味を知るには、国語辞典を活用するとよいことに気づかせ、国語辞典に興味をもたせる。 3. 手がかりによって、国語辞典の引き方を理解する。 ＊教材文の「れい」にそって清音、濁音、半濁音の順番に載っていることを確認させ、理解させる。また、長音、拗音の引き方も設問をおいながら確認していく。実際に教師が引きながら児童と確認するようにする。辞典によって、並び方のきまりや記号の使われ方が異なることがあるので、自分の持っている辞典を確認し、使えるように指導する。 ＊用言は、終止形で引くことを確認する。終止形がどのような形なのかかわからないことがあるので一緒に確認する。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ) 【態度】 ・積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習課題にそって国語辞典を活用しようとしている。
					2	4. 設問に従って、国語辞典で言葉の意味を調べる。 ＊一人一人が独力で調べられるようにする。 ＊複数の意味がある場合、どの意味が適切なのか、文脈を読んで判断し、選べるように指導する。 ＊知らない漢字や熟語に出会ったときには、辞典を活用することの便利さを意識できるように、辞典の使い方に慣れさせておくといよ。 5. 学習を振り返る。	
1学期	5月	6 (話す聞く6)	二 メモをくふうしようかいしよう わたしのたからもの 教科書:P38 ◇話の中心をはっきりさせたり、話す順序を考えたりして自分の宝物を紹介し、友達の意見や感想をもとによりよい構成を考え、発表する。 ★ここが大事:発表メモをもとに発表する ☆学習用語:発表メモ／発表／メモ／組み立て／感想／理由／意見／始め／中／終わり／順序／筋道／聞き手	話聞	1	＜見通しをもとう＞ 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)自分の宝物を、メモをもとに、みんなに紹介するという学習の見通しをもって「学習のすすめ方」をもとに学習計画を立てる。 ＊P39「練習のときの森本さんの話」とP40の発表を読んで、森本さんの発表が変わったことに気づかせる。 ＊単なる内容の紹介ではなく、内容や話し方について、友達とアドバイスし合ってよりよく伝えるための学習であることを理解させる。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ) ○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)
					2	＜きめよう・あつめよう＞ 2. 紹介する宝物を選び、伝えたいことを考える。 (1)自分が紹介したい宝物について考えを広げる。 ＊イメージマップなどを活用し、考えを広げさせるようにする。 ＊宝物を選んだら、どうしてそれが宝物なのかを考えさせるようにする。	【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア)
					3	＜組み立てよう＞(重点) 3. 伝えたいことが伝わるように、組み立てを考える。 (1)P39の森本さんが最初に考えたメモとスピーチを読んで、伝えたいことは何だったのか(話の中心)を話し合う。 ＊話の中心が何であるかを考えさせるようにする。 (2)P40の森本さんが作り直したメモとスピーチを読み、改善された点について話し合う。 ＊話の中心が何であるかを考えさせるようにする。 (3)発表メモを書く。 ＊メモは短い文で書かせるようにする。	【態度】 ・粘り強く話の中心が明確になるように話の構成を考え、今までの学習を生かして、自分の宝物を紹介しようとしている。
					4	(4)グループの中で練習をする。 ＊スピーチをよりよくするために互いに助言し合うというめあてをもたせ、聞き合うようにさせる。 ＊話の中心が何であるかを考えながら、聞くことを伝える。 ＊P40の「大事な言い方」を確認し、使うことを意識させる。 ＊P41の「ここが大事」を確認する。 (5)意見や感想を伝え合い、メモを書き直す。 ＊始め、中、終わりでどのようなことを話すかを再度、確かめる。 ＊グループでスピーチをしたり意見・感想を述べ合ったりして、最初のメモを直し、中心や理由がさらにはっきりするよう見直しをさせる。 ＊メモには、違う色で書き足させると、わかりやすく評価もしやすい。	
					5・6	＜話そう・聞こう＞ 4. クラスで発表する。 (1)クラスで発表し合う。 ＊P41の「ここが大事」を確認し、発表の際に意識させる。 ＜つたえ合おう＞ 5. 感想を伝え合う。 (1)宝物を紹介した感想を伝え合う。 ＊話す内容や話す順序について、感想を伝えるようにする。 ＜ふり返ろう＞ 6. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊聞き手に伝わる発表にするために、どんな組み立てを考えたかを振り返らせる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	2	漢字の広場① 漢字学習ノート 教科書:P42 △新しく学ぶ漢字や既習の漢字を使って漢字学習ノートを作る。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊漢字ノートのまとめ方を理解するという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 2. 「漢字学習ノート」にまとめる手順を理解する。 ＊P42の図を見て、「漢字学習ノート」にどのような事柄を書くのか考える。 ＊新出漢字の学習に生かすためのノートであることをおさえる。 ＊国語ノートとは別に、漢字学習用として専用のノートを準備するとよい。 ＊「動」を例にノートをまとめる手順を丁寧に確認する。 3. P42を参考にして、既習漢字の中の一字について、読み方・意味・使い方などを調べ、短文を考えて、「漢字学習ノート」に書き、まとめる。 ＊音訓ともに、声に出して読み方を確認できるようにする。 ＊組み立てによって分けることができない単体の漢字は、筆順を書くこともよい。 ＊筆順を含め、正しく書くことができるようにする。 ＊意味は、国語辞典の漢字項目などを参考にすることが考えられるが、主要なものにしぼる。 ＊言葉集めでは、積極的に発表できるようにする。 4. 「漢字学習ノート」に書いた使い方と短文をそれぞれ発表し合う。 ＊言葉集め、短文作りでは、発表、話し合いの場面を十分にとる。 ＊友達から学んだことも書き加えるとよい。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。
					2	5. 新出漢字について「漢字学習ノート」を作り、発表し合う。 ＊「集」について同様に、ノートにまとめ、使い方と短文をそれぞれ発表し合う。 ＊漢字の日常学習として継続できるようにはたらきかける。	
1学期	5月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字① 教科書:P44 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊漢字の使い方や表記などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ＊絵の中にある2年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 7. 「木の下で、おべんとうを食べている人がいます。」を参考にして絵の中の様子を文に書く。 ＊絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 8. 「木の下で、おべんとうを食べている人がいます。」の続きの文を書く。 ＊「木の下で、おべんとうを食べている人がいます。」の続きの文の例。 「それから、マイクを持って歌っている男の子もいます。」 ＊続きの文を書くために、「また」「それから」「でも」「なぜなら」「そのわけは」などの接続語を提示してもよい。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりし、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するなど書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊表現を改めたり、書きまちがいをなどを正したりして、書いた文を発表する。 10. 学習を振り返る。 ＊学習する漢字についてノートを作るなどして漢字や言葉に対する意識を高めたり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
1学期	5月	2	三 だんらくに気をつけて、要点をまとめよう うめぼしのはたらき 教科書:P46 □段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。	読む	1	1. 本文を読み、問いと答えの関係を明らかにする。 (1)どんな疑問が書かれているのか、本文中から見つける。 (2)疑問に対する答えを探す。 (3)答えを更に詳しく説明している段落を読み、3つの「よいはたらき」を確認する。 (4)「よいはたらき」が書かれている部分において、「中心となる文」と「それを説明する文」に分ける。 (5)本時の学習活動について振り返る。 ＊本文中の該当する部分に線を引き、どこに線を引いたのか確認するだけの授業にならないように、内容理解を丁寧に行う。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ)
					2	2. 形式段落の意識を高め、段落ごとの要点を確認する。 (1)線(実線)を引いた部分を読み直し、その部分が段落の中でどのような役割をしているのか考える。 (2)要点がわかることのよさを整理する。 ＊「中心となる文」＝要点ではあるが、本文全体でみればそれだけでよいのではなく、「説明する文」が添えられているからこそ「中心となる文」が引き立っているというように、「中心となる文」があれば他の文はいらないという発想にならないよう、丁寧に本文を読んでいくことの大切さに気づかせたい。 (3)『うめぼしのはたらき』の学習で身につけたことを振り返る。	【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで段落相互の関係を意識して本文を読んだり、本文中の大事な言葉に注目しながら読んだりして、学習課題にそって、段落ごとの要点をまとめようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	10 (書く2)	三　だんらくに気をつけて、要点をまとめよう めだか 教科書:P48 □段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。 ★ここが大事:だんらくの「要点」をつかむ ☆学習用語:段落／要点	読む	1	＜見通しをもとう＞ 1. 「うめぼしのはたらき」で学習したことを生かして、「めだか」を読む。 (1)本文の範読を聞き、疑問・答えに線を引く。 (2)「てきから身を守る方法」「体のとくちょう」の部分では、さらに「中心となる文」「それを説明する文」に分けて線を引く。 (3)線を引いた部分を全体で確認し、本文の大体をつかむ。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、　書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ○「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ)
					2	＜たしかめよう＞ 2. 文章構成を明らかにして本文を読む。 (1)「はじめ」と「おわり」の部分を確認し、それぞれの役割を確認する。 (2)「中」の部分を丁寧に読み、二つのまとまりに分ける。 (3)「はじめ」「中」「おわり」の構成について整理し、役割をまとめる。 ＊子どもたちの実態に応じて、教科書P54のように図式化して文章構成をまとめる。	
					3・4	＜くわしくよう＞ 3. 中の部分を丁寧に読み取る。(パート1「てきから身を守る方法」) (1)5～8段落の要点をまとめる。 (2)めだかが、どのようにして身を守っているのかまとめる。 (3)要点のまとめ方を振り返る。 4. 中の部分を丁寧に読み取る。(パート2「めだかの体のづくり」) (1)9～12段落の要点をまとめる。 (2)めだかの体のづくりをまとめる。 ＊教科書P54のような表をノートに書いてまとめさせると見やすくてよい。	
					5・6	＜まとめよう＞ 5. 段落ごとの要点を整理して、わかったことをまとめる。 (1)「てきから身を守る方法」か「体のとくちょう」のどちらか一つを選んで、わかったことをまとめる。 ＊まとめ方は個人に選択させる。ノートでも原稿用紙でもレポート用紙でも、あるいはタブレット端末を用いてまとめてもよい。 (2)わかったことに加えて、感想も書く。	
					7・8	＜つたえあおう＞ 6. 自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いて共有したりする。 (1)発表準備・練習をする。 (2)小集団で発表会を行う。 (3)まとめ方や感想の内容について、よい点を友達に伝え合う。 ＊2時間続けて授業ができることが望ましいが、1時間ごとに分かれてしまう場合は、第7時の(1)(2)(3)のサイクルを第8時でもう1回行う。	
					9・10	＜ふり返ろう＞ 7. 学習全体を振り返り、要点のまとめ方をしっかりまとめる。 (1)要点を捉えるとき、どのような言葉に気をつけて行ったか発表する。 (2)友達の感想を読んで考えたことを発表する。 8. 『めだか』の学習で出会った言葉について振り返る。 (1)「てきから身を守る方法」を説明するために使われていた言葉について振り返る。 (2)「体のとくちょう」について説明するために使われていた言葉を振り返る。 (3)教科書P56下段の課題に取り組む。 (4)本時の学習を振り返る。 ＊今後の生活で活用できるような声掛けを大事にしたい。	
1学期	6月	3	読書の広場① 本をさがそう 教科書:P58 △図書館で本を探す方法を知り、本を探して読む。	読書	1	1. 図書館で本を探す方法を知り、本を探して読むという学習内容を捉え、学習の見直しをもつ。 2. 図書館に行き、本を探す方法を知る。 (1)たくさんの本の中から、目的の本を見つけるための方法について確かめる。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解使っている。((2)イ) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・すすんで本を手にとり、内容の本を探したり内容を調べたりし学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得ようとしている。
					2	3. 図鑑の構成と使い方を知る。 (1)調べ学習の経験を想起し、自分の知りたいことが載っている本を探す方法について発表する。 (2)目次・索引の役割や違いを知る。 (3)目次・索引を使って図鑑を引く。	
					3	4. 調べたいことを決め、本を探す。 (1)前書き・後書きが本を探すときの手がかりになることを知る。 (2)奥付について知り、調べた本についての記録の仕方を知る。 (3)調べたいことを決め、目次・索引、前書きなどの手がかりをもとに本を探して読む。 5. 学習を振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	10 (書く10)	四 図やしりょうを目的に合わせてえらぼう クラスの「生き物ブック」 教科書:P62 ■図や資料を使って、生き物の特徴を比べて書く。 ★ここが大事：説明する文章を書く ☆学習用語：メモ／組み立て表／題名／意見／出典／図／文章／資料／横書きの文／読み返す／説明する／段落／理由／例／点(、)／コンマ(、)	書く	1	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読んで、見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)力 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)
					2～4	<きめよう・集めよう>(重点) 2. 生き物を選び、調べる。 (1) 調べたい生き物の特徴を探す。 ＊生き物の特徴の例：大きさ、色、口、羽、幼虫、さなぎ、餌 ＊生き物の特徴は一つではないから、いろいろな特徴に気づかせたい。 ＊理科で扱う「色・形・大きさ」の観点に着目させることで、合科的指導も可能である。 (2) 選んだ生き物と、比べてみたい生き物について調べ、メモに書く。 ＊4月に学習した「発見ノート」を参考にさせてもよい。 ＊調べてわかったことをメモしたり、文章を引用したりした場合は、書名・筆者名などの必要な情報を奥付で確認し、必ず記録させる。 ＊一つ一つの生き物ごとに、調べたことをメモさせる。 ＊メモには、日付と生き物の名前を書いてから、調べた特徴を書き、最後に調べた本を書かせる。	
					5～7	<組み立てよう>(重点) 3. 組み立て表を作る。 (1) 書いたメモを並べる。 ＊組み立て表には、「調べたきっかけ」「調べたこと」「まとめ」「調べた本」のような項目を立てて書く。 (2) 組み立て表を読み合い、見直す。 ＊内容として足りないと思う点や不必要な点などを伝え合って、修正させる。 ＊P67の下段の「よこ書きの文の書き方」を説明文と比べながら確認する。	
					8	<書こう> 4. 文章を書く。 ＊横書きのきまりに慣れない児童が多いので、机間指導において適宜支援する。	
					9	<読み返そう> 5. 文章を読み返す。 ＊内容のまとまりごとに段落を作って書くことができているかを、必ず確認させる。	
1学期	6月	2	漢字の広場② 漢字の音と訓 教科書:P68 △漢字の音と訓について理解する。 ☆学習用語：音／訓	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊漢字の音と訓について知り、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 2. P68の上段の設問を読み、「花」という字の読み方の違いを考える。 ＊「花」に二通りの読み方があることを確認する。 「力」の語例(花びん、花ふんなど) 「はな」の語例(花たば、花ばたけ、花びら、花見、花言葉、生け花など) 3. 漢字には、音と訓の読み方があることを知り、その違いを比べる。 ＊漢字には「いろいろな読み方」があるというこれまで蓄えてきた知識を、「音」「訓」をもとに再整理し、漢字についての興味・関心が増すように取り組む。 ＊「音」を「おと」と読むのではなく、「おん」と読むことを確認する。 4. P152の『漢字を学ぼう』の表を使って、これまでに学んだ漢字の音と訓を確かめる。 ＊それぞれの漢字の読み方に応じた言葉に着目できるようにする。 ＊児童自らが、音・訓のある漢字や、音か訓だけを用いる漢字と、それらの言葉の例などを発表できるようにする。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字の「音」と「訓」について知り、正しく使おうとしている。
					2	5. P69上段の設問を読み、音と訓のどちらが使われているかを話し合う。 ＊学習の展開にあたっては、巻末の『漢字を学ぼう』や国語辞典などを活用して調べる活動を取り入れる。 6. 「草原」(ソウゲン・くさはら)のように、同じ表記でありながら異なる読みをもつ語のそれぞれの読み方と意味を確かめ、語感の違いを話し合う。 ＊「草原」などを使って短文を作り、それを友達が音訓のどちらで読むか、確認する。 ＊音で読むときと、訓で読むときの語感の違いを話し合うとともに、国語辞典を利用して調べたそれぞれの意味を発表し合うとよい。 7. 「カイジョウ」と読む同音語や、「かえる」と読む異字同訓の、それぞれの意味の違いを話し合い、国語辞典で意味を調べ、確認する。 ＊「会場・開場・海上」や「帰る・返る・代える」などの言葉を使って短文を作り、声に出して読み合うとよい。 ＊漢字は、どのような単語の中で使われるか、どういう送り仮名がつくかでそれぞれの読み方が決まってくる。多くの語句や文にふれることをとおして、音訓に気をつけて読むことができるようにする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動＊／留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字② 教科書:P70 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊絵の中にある2年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる夏休みの様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 9. 「ぼくは、海で姉や妹と遊びました。夜は、星を見ました。」を参考にして絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子を説明する2文以上が続く文を書く。 ＊続きの文を書くために、「そして」「そうすると」「しかし」「けれども」「なぜかという」となどの接続の語を提示するとよい。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 10. 絵の中の言葉を三つ以上使って、2文以上が続く文章を書く。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 12. 学習を振り返る。 ＊漢字の音と訓について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
1学期	7月	9 (書く2)	五 物語のせかいをそうぞうしよう 紙ひこうき、きみへ 教科書:P72 □登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや、物語に出てきたものと結びつけて想像する。 ★ここが大事:物語のせかいをそうぞうする ☆学習用語:登場人物／行動／会話	読む	1・2	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉を読む。 (2)範読を聞き、登場人物や、場面ごとのできごとを捉え、感想をもつ。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで場面の移り変わりと結びつけて、学習課題にそって、登場人物の気持ちの変化や性格について具体的に想像しようとしている。
					3・4	<たしかめよう> 2. 登場人物について確かめる。 (1)キリリがどのような人物かわかるところに線を引き、交流する。 (2)ミークがどのような人物かわかるところに線を引き、交流する。 (3)キリリとミークがそれぞれどのような人物かまとめる。	
					5・6	<くわしくよう> 3. ミークの変化についてくわしく読む。 (1)ミークとキリリの行動や会話文、気持ちを表す言葉、持ち物や道具などから、キリリの変化についてわかるところを見つける。 (2)見つけたことを交流する。 ＊「リュックサック」と「古い旅行かばん」がもつイメージを出し合い、比べることで、身軽さや重たい感じなど、持ち物から考える手掛かりとする。 ＊紙ひこうきとちようちよたちが物語の中でどのように書かれているのか詳しく読み、キリリの気持ちの変化について考える。	
					7	<まとめよう> 4. 最後の場面の登場人物の気持ちを想像する。 ＊どうしてそのような気持ちだと想像したのか、理由を書いたり根拠となる言葉や文章を書き出したりする。	
					8	<つたえあおう> 5. <まとめよう>で想像したことを伝え合う。	
					9	<ふり返ろう> 6. 「ここが大事」を確認し、「ふりかえろう」の観点にそって振り返りを行う。 (1)物語に出てきたものを比べて読みながら、どのような感想をもったか。 (2)登場人物の行動を考えるときに、どのようなことに気をつけたか。	
1学期	7月	4	言葉の広場② ローマ字 教科書:P93 △ローマ字に興味をもち、ローマ字の書き方について理解し、読めるようにする。 ☆学習用語:のばす音／はねる音／つまる音／大文字／小文字／ローマ字／つづり	言語	1～3	1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 ＊教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. 日本語はローマ字でも表記できることを知り、母音と子音の意味を理解して、ローマ字で書かれた簡単な言葉を読む。 ＊身のまわりで使われているローマ字を探し、ローマ字で書かれたものを発表させる。最近では、英語での表記もあるので、混同しないように、発表の際には教師が気を配るようにする。英語との混同を避けるためには、ローマ字は、日本語の発音をアルファベット表記したものであることをきちんとおさえさせる。 ＊教科書に示されたローマ字を読み、ローマ字の表を使いながら自分で読めるように支援する。 3. P91のローマ字で書かれた言葉を読み、母音と子音の組み合わせでローマ字が成り立っていることに気づく。 4. のばす音、はねる音、つまる音の仕組みと書き方を知る。 ＊自分で書くことにより、確認をする。 5. 大文字と小文字の使い分けを知る。 6. ローマ字の綴り方の違うものがあることを知る。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【態度】 ・すすんで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、ローマ字に親しもうとしている。
					4	7. 自分の身のまわりにあるローマ字に目を向け、ローマ字を集めるなどして、意識する。 ＊読み書きの基本を理解させ、自分の書きたい言葉を書けるように、支援する。 ＊ローマ字の表記の仕組みを理解させ、五十音表を活用して、探しながら書くなど慣れるようにしていくとよい。 8. 学習を振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	1	言葉の広場③ ローマ字とコンピューター 教科書:P95 △コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。 ☆学習用語:発音	言語	1	1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 ＊日常生活におけるローマ字入力の機会や場面について話し合い、ローマ字とローマ字入力について意識づける。 2. P95の「ちゅういすること」を読み、ローマ字でコンピューターに入力した後の文字変換の際の文字の選択・決定は人が決める必要があることを理解する。 ＊コンピューターに入力する際、文字の変換や語句選びなどには、人が関わり、人が決めることを理解させる。機械任せではないことに気づかせる。 ＊ただし、ローマ字を打ち込む技術が必要であり、覚えて使いこなすことの必要性を感じさせる。 3. 入力の際に気をつけなければならない字について理解し、正しく打ち込めるようにする。 ＊P92のローマ字表を想起させ、ローマ字の規則性を確かめさせる。そのうえで、違う書き表し方をする文字に注意するよう促す。 4. P94の問題にある言葉を入力をして、ローマ字の綴り方の確認をする。 ＊身のまわりのさまざまな言葉を入力させ、ローマ字入力の仕方に慣れさせてもよい。 ＊文字変換の方法に慣れさせるとともに、適切な漢字や語句の選定は自分で行わなければならないことを理解させる。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【態度】 ・すすんで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。
1学期	7月	1	読書の広場② ひろがる読書のせかい 教科書:P96 △「読書マップ」の作成や、「読書クイズ」をする活動を通して、幅広く読書に親しむ。	読書	1	1. 「読書マップ」を作ったり、「読書クイズ」をするという学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。 2. 学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借りて、「読書マップ」や「読書クイズ」を作る。 ※夏休みの宿題との関連などが考えられる。 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・活動に見通しをもち、読書に親しみ、すすんでいろいろな本があることを知ろうとしている。
2学期	9月	2 (話す聞く2)	大事なことを書きながら、話を聞こう 「りす公園」はどこにある？ 教科書:P98 ◇大事なことは何かを考えて、必要なことをメモに取ったり、質問したりしながら聞く。 ★ここが大事:メモを取りながら話を聞く ☆学習用語:メモ／中心／質問	話聞	1	1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)メモを取りながら大事なことを聞くという学習の見通しをもって学習計画を立てる。 ＊板書に挿絵の拡大した物を提示する。 2. メモを取りながら話を聞き、どこに「りす公園」があるのかを探す。 (1)メモを取りながら夏川さんの話を聞き、「りす公園」への道順を確認する。 ＊教科書を見せずに、教師が「りす公園」までの説明を読みメモを取らせる活動をしてから、教科書の絵を見るようにする。 ＊メモは短い文で書かせるようにする。 (2)メモを見せ合い、メモの取り方について話し合う。 ＊P100の「ここが大事」を確認し、メモを取るときに意識させる。東野さんのメモと自分のメモを比較して、メモを取りながら話を聞くために「ここが大事」を確認する。 (3)東野さんがなぜ質問をしたのかを話し合う。 ＊どんなときに質問をするとういのか、板書に整理するとよい。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、今までの学習を生かして公園の道順についてメモを取りながら聞いている。
					2	3. 「聞いて探そうクイズ」をする。 (1)公園の絵の中から道順の説明を聞いて場所を当てるクイズを考える。 ＊スタートとゴールを決めて、その道順の目印になる建物や方向を表す言葉を選びメモに書かせる。 ＊道順を説明するために場所や方向の言葉をメモに書くようにする。手がかりとなる場所の説明は、建物の色・形・看板・植木やベツなどの特徴等の視覚的な情報を入れるように工夫させる。 (2)「聞いて探そうクイズ」を出し合う。 ＊クイズの手順について説明する。 ①問題を出す人は、スタートと道順を説明してゴールはどこかを尋ねる。 ②答える人は地図を見ずにメモを取りながら聞く。 ③聞き終わったらメモを手がかりにして、質問しながら絵の中のゴールを答える。 4. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊大事なことを書きながら話を聞くととき、どんなメモの取り方をしたかを振り返らせる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動＊／留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	10 (話す聞く・書く8)	六 つたえたいことをはっきりさせて書こう 取材したことをほうこく文に 教科書:P102 ■取材をとおしてわかったことを、伝えたいことを明確にして報告文にまとめ、感謝やお誘いの手紙を添えて送る。 ★ここが大事:取材したことをまとめる ☆学習用語:取材メモ／取材する／取材／インタビュー／手紙／資料／箇条書き／質問／報告文／見出し／段落／読み返す／句点／句読点／読点／組み立て／言葉づかい／メモ	書く	1	＜見通しをもとう＞ 1. 「学習のすすめ方」を読んで、見通しをもつ。 ＊見学しながらインタビューをして調べ学習を進めることを確認する。 ＊クラスで冊子にまったり、発表会を行ったりするなど、単元末の活動の見通しをもたせる。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)
					2～4	＜きめよう・集めよう＞ 2. 知りたいことをまとめ、取材する計画を立てる。 (1)「取材メモ」の例を読み、取材のときに注意することなどを出し合う。 ＊「取材メモ」が、[知りたいこと][取材をしてわかったこと][思ったこと]に分かれていることに気づかせ、その意義を捉える。 (2) P104・105の阿部さんの例文を欄外の注意点とともに読み、気づいたことなどを出し合う。 (3) P107を参考に、インタビューの仕方を理解し、計画を立てる。 ＊誰に、どのようなことをきくのかを想定させる。 ＊役割分担をどのようにするのかを決める。 ＊二人組あるいはグループでインタビューの練習をさせる。 ＊箇条書きで、一つ一つの事柄を短く整理して書き並べていくことを意識させる。	【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって報告文を書こうとしている。
					5・6	＜組み立てよう＞(重点) 3. 「取材メモ」の中から、書く内容をえらぶ。 ＊「取材メモ」の中から、いちばん伝えたいことを中心に選び出す。 ＊「取材メモ」をもとに、文章の構成を考える。	
					7・8	＜書こう＞ 4. ほうこく文を書く。 ＊書く前にいま一度教科書を読み、留意点を確認させる。 ＊教科書の例を参考に、見出しも考えさせる。	
					9	＜読み返そう＞ 5. ほうこく文を読み返す。 ＊書き上げた報告文を読み返して、必要なところは書き直して清書する。 ＊読み返す時、P106にある三つの観点を一つずつおさえ、必要に応じて修正させる。 ＊下書きが終わった者どうして相互に読み合わせ、よい点や書き直すべき点を伝え合う場を設定する。	
					10	＜つたえ合おう＞ 6. 友達と読み合う。 ＊クラスにふさわしい方法で読み合わせる。 ＊文集にして読む。 ＊発表会を行う。 ＊学校外で取材した場合は、お礼も兼ねてほうこく文を届ける。 ＜ふり返ろう＞ 7. 伝えたいことをはっきりさせるために、どんな工夫をして、報告文を書いたか振り返る。	
2学期	9月	6 (書く6)	相手や目的に合わせて書こう 自分の気持ちを手紙に 教科書:P108 ■手紙書き方を知り、目的に合わせた手紙を書く。 ☆学習用語:季節の言葉／気持ち／伝える／自己紹介／手紙／言葉／報告文／結びの挨拶／後付け／日付／話し合う	書く	1・2	1. 教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。 2. P108・109の阿部さんの手紙を読んで、お礼の手紙の書き方や書くときの工夫について考える。 ＊阿部さんの手紙を読みながら、お礼の手紙の構成を板書で確認する。 ＊P108・109の下段の注記と対比しながら、構成を確認する。 3. 誰にどのようにお礼を伝えるのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。 ＊社会科の学習や総合的な学習の時間の活動など、クラスの実態に合わせて、相手や目的を設定するとよい。 ＊P145「よこ書きの手紙の書き方」についても併せて参照し、目的に応じた手紙の書き方を知る。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。(B(2)イ) 【態度】 ・粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確認、学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書こうとしている。
					3	4. お礼の手紙の構成を考える。 ＊季節の言葉は、「手紙の書き方」などの類書から、教師が児童の実態に合ったものをいくつか用意しておく。	
					4	5. 手紙・封筒の書き方を知り、相手や目的に応じた手紙を書く。まちがいがなければ読み直す。 ＊封筒の書き方は、P109の「ふうとうの書き方」と対比しながら、大事なことを確認する。 ＊時間的な余裕があれば、何について誰に対して案内をするのかを考えて、案内の手紙を書かせたい。	
					5	6. 下書き(清書)を読み合い、書き手の気持ちが伝わる文章になっているか確かめる。	
					6	7. 学習を振り返り、手紙のよさについて話し合う。 ＊相手や目的に合わせた手紙にするために、どんなことに気をつけたか振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	2	漢字の広場③ 送りがな 教科書:P110 △送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 ☆学習用語:送りがな	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊送り仮名について理解するという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「強まる」「強める」を含む文を読み比べ、送り仮名の役割について考える。 ＊「送りがな」という語を再確認し、その意味、役割を理解できるようにする。 ＊読み方をわかりやすくするために、どんな表記が望ましいかを比べてみる。 3. P110下段の例示の言葉をいくつか使って短文を作り、友達と読み合い、適切に送り仮名を書いているかを確かめ合う。 ＊「歩く」や「高い」などの語例をもとに、送り仮名の意味と役割を明確に理解できるようにする。 4. 教科書に示されているほかにも、「動きを表す言葉」や「様子を表す言葉」を探し出し、発表し合う。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【態度】 ・すすんで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字を正しく使おうとしている。
					2	5. P111上段の「書く」「読む」の()に送り仮名を書き、気づいたことを話し合う。 ＊ここでは、語形が変化することの法則性にある程度気づかせるようにしておく。「書く」「読む」など五段活用 of 動詞の場合、五十音表の五段にそって語形が変化する点をおさえたい。 6. 「だす・でる」「きる・つく」「けす・きえる」を、送り仮名に注意して漢字で書く。 ＊「出す・出る」「着る・着く」「消す・消える」などは、助詞に着目し、動詞とつなげて考えることもできる。 ＊同じ漢字でも送り仮名によって、読み方や意味の違いを使い分けしていることを知り、正しく読むことができるようにする。 7. 「育」などを、送り仮名の違いに気をつけて正しく読むようにする。 ＊「育つー育てるー育む」「重いー重ねるー重なる」「苦しいー苦い」など、それぞれの意味の違いについては、前後の言葉と合わせて考えるようにしたい。 ＊活用のある動詞から名詞に転じた「光」「話」などは、例外的に送り仮名をつけないことを経験的に理解できるようにする。 ＊巻末『漢字を学ぼう』(P152)などを使って、同じような漢字を探させてみるとうい。 (例)「上」「下」「交」「直」「通」など 8. 送り仮名によって、読み方が変わる漢字を集め、それらを使った短文を書き、発表する。 ＊ほかにも「行くー行う」「細かいー細い」など、巻末『漢字を学ぼう』から探すことができる。 ＊いろいろな送り仮名を読むことをとおして、送り仮名についての理解を深め、正しく使い分けられるようにする。	
2学期	9月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字③ 教科書:P112 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊絵の中にある2年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる秋の野外の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 10. 「元気に走り回ってみようと思います。」を参考にし、外でやりたいことを文に書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊自分がやりたいことが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 11. 外でやりたいことについて、絵の中の言葉を三つ以上使い、二文以上が続く文章を書く。 ＊続きの文を書くために、「そうして」「そうすると」「けれども」「なぜか」というと「そのわけは」などの接続の語を提示するとよい。 12. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するなど書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊表現を改めたり、書きまちがいをなどを正したりして、書いた文を発表する。 13. 学習を振り返る。 ＊送り仮名について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動＊／留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	9 (書く2)	七 題名について考えたことをつたえよう わすれられないおくりもの 教科書:P114 □題名について考えたことを伝え合う。 ★ここが大事:題名について考える ☆学習用語:文／訳／漢字／気持ち／手紙／ 題名／発表する／物語／様子／話し合う／場 面／登場人物	読む	1～3	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 <たしかめよう> 2. 物語の全体をつかむ。 (1)題名からどのようなことを考えたか、自由に想像して自分の考えを発表 するとともに、全文を読んで初発の感想を書く。 ＊場面の移り変わりに気をつけて読み、題名の「わすれられないおくりも の」とはどのようなものなのかを考えようという単元の見通しをもたせる。 (2)森の動物たちのあなぐまとの思い出を、表に整理してまとめる。 ＊教科書P26下段の表を参考にして、登場人物ごとにあなぐまとの思い出 とその時の様子や今の様子を整理させる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する 語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解して いる。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、 情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想 像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づい て、感想や考えをもっている。(C(1)オ)
					4・5	<くわしくよう> 3. 森の仲間たちとあなぐまの気持ちを想像する。 (1)あなぐまが、どのような気持ちで森の動物たちにいろいろなことを教えて くれたのかを想像し、話し合う。 ＊物語の前半部分に、あなぐまの心が語られている。その叙述をもとに、 あなぐまの思い出を想像する。 ＊教科書P128の「言葉」について、適宜取り上げる。 (2)あなぐまが死んでしまった場面と物語の終わりの場面で、もぐらの気持 ちがどのように変化したかを考えて、発表し合う。 ＊あなぐまが死んでしまって、もぐらは、毛布をぐっしり濡らすほど涙を流 している。それに対し、物語の最後の場面では、「ありがとう、あなぐま さん。」と呼びかける姿に変わっている。もぐらはどのような気持ちに変化し たのか、なぜそのように変化したのかを話し合うようにする。	【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを 伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで登場人物や気持ちについて考え、今までの学習 を生かして物語の内容と結びつけて題名の意味を考えよう としている。
					6～8	<まとめよう> 4. 題名にある「わすれられないおくりもの」が、森のみんなにとってどのよ うなものか考え、ノートに書く。 ＊個々の動物たちの言葉を考えるだけではなく、森の動物たちみんなに対 する「わすれられないおくりもの」とは何だったのかを考える。 <つたえあおう> 5. 「わすれられないおくりもの」とはどのようなものだと思うか、友達と発表 し合う。	
					9	<ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 ＊教科書P129「ここが大事」を確認し、物語の内容と題名は深く関わってい ることを振り返る。 ＊今までに学習してきた物語にはどのような題名がついていたかを振り返 り、題名のもつ意味について考える。	
2学期	10月	4 (書く1)	言葉の文化① 俳句に親しむ 教科書:P130 △俳句を声に出して読み、言葉のリズムにふ れる。 ☆学習用語:俳句／季語	文化	1	1. P130を読んで、学習のめあてをつかむ。 ＊俳句の特徴をつかみ、俳句を声に出して読み、言葉のリズムを感じた り、情景をイメージしたりすることをおさえる。 2. 俳句の特徴を知る。 ＊P130の児童の俳句をもとに、音数・季語・季節などを確かめる。	【知識・技能】 ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりする などして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事 例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1) ウ)
					2・3	3. それぞれの句を、解説を読みながら、季節の様子を想像して音読する。 ＊写真などを手がかりにしながら、どんな情景なのかを頭の中に思い浮か べさせる。 ＊リズムや響きを感じ取ることを大事にする。 ＊音読しての感想を、自由に言わせてもよい。	【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活 動。(B(2)ウ)
					4	4. 気に入った俳句を覚えて暗唱し、発表する。 ＊リズムを意識しながら、何度も声に出して読んで覚えさせる。 ＊暗唱を家庭学習としてもよい。 5. 想像した句の情景や、その句を気に入った理由などをカードに書いて、 発表し合う。 ＊想像したことや理由が明確に述べられるよう促す。 ＊他者に伝わる(共感してもらえる)ようになっているかどうか、確かめる。 6. 学習を振り返る。	【態度】 ・すすんで易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりする などし、学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親し もうとしている。
2学期	10月	1 (書く1)	言葉の文化② きせつの言葉を集めよう 教科書:P136 △俳句には「季語」が読み込まれていることや、 「歳時記」の存在を踏まえ、春夏秋冬や新年に 関するそれぞれの季語を集める。 ☆学習用語:季語	文化	1	1. 教科書に例示した俳句の中にある「季語」を指摘し、声に出して読む。 ＊季語を確認させ、「歳時記」について知らせる。 2. 「歳時記」などから、季節に関する言葉を集めてノートに書く。 ＊「歳時記」などから、季節を表す言葉を集めさせる。 ＊それぞれの「きせつの言葉ノート」などに集成しておいて、自分の「歳時 記」を作ることに発展させることも考えられる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの 意味を知り、使っている。((3)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したこと や想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較し たり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考 えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を 知り、学習課題にそって季節の言葉を集めようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	1 (話す聞く1)	国語の学習 つながる ひろがる 教科書:P138 ◇上巻の教科書での国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 ＊上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。挿絵やふきだし、「三年生で学ぶこと」を参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 ＊心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 ＊友達の発表を共感して聞き、交流し、学んできたことを共有できるようにする。 2. 1で出し合ったことが、ほかの教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 ＊国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。	【知識・技能】 ○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態度】 ・積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、上巻の教科書での国語の学習を振り返ったり下巻の教科書で学習することへの希望を話し合ったりしようとしている。
2学期	10月	2 (話す聞く2)	一 文章を読んで、考えたことをまとめよう 世界の人につたわるように 教科書:P8 ◇身のまわりの絵について、どのような意味を表しているか、絵で表すことのよさについて話し合う。	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)町にある看板や道路標識の絵について、クラスで話し合うという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 ＊P8の写真を提示する。 2. 町にある看板や道路標識について話し合う。 (1)P8の看板や道路標識について話し合う。 ＊P8の写真の中から絵に着目させる。 (2)身のまわりの絵について調べる。 ＊どのような絵があるか、どのような意味を表しているかについて調べさせる。 ＊次の単元も見据えて図書資料を用意し、図書資料を活用できるようにするとよい。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんで集めた材料を比較したり分類したりして、今までの学習を生かして、身のまわりの絵について絵で表すことのよさについて話し合おうとしている。
					2	(3)調べたことを紹介する。 ＊絵と意味についてグループで紹介させる。 3. 世界の道路標識について話し合う。 (1)絵の意味について話し合い、絵で表すことのよさについて話し合う。 ＊絵の共通点、相違点に着目して話し合いをするとよい。 <ふり返ろう> 4. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊絵で表すことのよさについて話し合うとき、どんなことに気をつけて伝えたかを振り返らせる。	
2学期	10月	7 (書く2)	一 文章を読んで、考えたことをまとめよう くらしと絵文字 教科書:P10 □段落のつながりに気をつけて文章を読み、絵文字を説明する文章を書く。 ★ここが大事:だんらくとだんらくのつながりから考える ☆学習用語:場面／役割／筆者／文章／要点／段落／説明する文章	読む	1	<見通しをもとう> 1. 題名やリード文を読んで、学習内容を想像する。 (1)知っている絵文字を発表する。 (2)わたしたちのくらしの中で、絵文字がどのように使われているのか考えて発表する。 ＊タブレット端末を活用し、実際に絵文字を見て確認しながら学習を進めていく。 (3)本時を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで本文を読んで考えたことをまとめ、学習課題にそって、自分の考えを友達に伝えたり比較して思ったことを発表したりしている。
					2	<たしかめよう> 2. 本文の大体を捉える。 (1)本文にはどのようなことが書かれているか、短い言葉で表現する。 (2)本文を「はじめ」「中」「終わり」の三つの部分に分ける。 ＊学級の実態に応じて、「『はじめ』『中』『終わり』に分けてみよう。」と投げ掛けるか、「全体を三つに分けてみよう。」と言うか、教師が判断すると学びが深まる。	
					3	<くわしくよう> 3. 絵文字の特徴を詳しく読み取り、これからの絵文字の役割について考える。 (1)絵文字の三つの特長を読み取り、ノートに書き出す。 (2)これからの絵文字の役割について書かれている段落を読む。 (3)本時を振り返る。	
					4・5	<まとめよう> 4. 他の絵文字について、くらしとのつながりを考えてまとめる。 (1)自分が説明する絵文字を選ぶ。 (2)本文の内容を参考にしながら、絵文字とくらしとの関わりをカードにまとめる。	
					6	<つたえあおう> 5. 作成したカードをもとに発表し、友達の発表と比べて、共通点や違いを見つける。 (1)友達と伝え合う。 (2)友達の発表と比較して、共通点や違いを見つける。 (3)見つけたことを発表する。	
					7	<ふり返ろう> 6. 学習全体を振り返る。 (1)本文中のどの言葉を、自分の発表に生かしたのか発表する。 (2)絵文字の発表の時に気をつけたことをまとめる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	7 (話す聞く7)	二 役わりをきめて話し合おう わたしたちの絵文字 教科書:P22 ◇司会や記録などの役割を決めて、学校の中 の場所を表す絵文字についてグループで話し合 う。 ★ここが大事:役わりをきめて話し合う ☆学習用語:記録／司会／発言者／役割／意 見／質問／理由／伝える／共通点／記録係／ 日付／議題	話聞	1	＜見通しをもとう＞ 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)学校の中の場所を表す絵文字を作るために、グループで話し合うという 学習の見通しをもって、「学習の進め方」をもとに学習計画を立てる。 ＊「学習の進め方」と照応させながら、図工室の例をもとに学習の全体の 流れをつかませる。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用 の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っ ている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司 会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通 点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)才) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し 合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・積極的に司会などの役割を果たしながら話し合い、学習課 題にそって、学校の中の場所を表す絵文字についてグルー プで話し合おうとしている。
	2	＜きめよう・集めよう＞ 2. 絵文字にする場所を決める。 (1)学校の中で、どの場所を絵文字にするかを決める。 ＊特別教室など特徴がわかりやすい教室にするとよい。					
	3	＜組み立てよう＞ 3. 役割を決めて、話し合いの進め方を考える。 (1)役割と話し合いの進め方を確認する。 ＊司会・提案・記録などの役割をはっきりさせることにより、話題からそれ ないで効果的な話し合いができることをP24～26の図工室の例をもとに理 解させるようにする。 (2)図工室の話し合いの例を確認する。 ＊話し合いの例は単に読み流すのではなく、役割読みをして意識させる。 P24～27の頭注にある話し手や聞き手の意識の吹き出し、脚注の話し合い のポイントなどを参考に、それぞれの発言の役割を考えさせるようにする。					
	4・5	＜話そう・聞こう＞(重点) 4. グループで話し合う。 (1) P27「役割を決めて話し合う」を読み、それぞれの役割や立場で話し合 いを進めるポイントを確認める。 (2) 役割をはっきりさせて話し合う。 ＊「どのような教室か」の話し合い、「絵文字のデザイン」の話し合い、「色 や背景について」の話し合いの三つの話し合いをすることを確認する。 ＊話し合いで決まったことをクラスで報告する時間を取る。					
	6	＜つたえ合おう＞ 5. 話し合いの感想を伝え合う。 (1)話し合っでできた絵文字のデザインを作成する。 ＊記録のノートを活用し、話し合ったことをもとに絵文字を作らせる。					
	7	(2)絵文字のデザインを紹介し、話し合いの感想を伝える。 ＊ICT機器を活用し、記録のノートを全体に共有する。 ＜ふり返ろう＞ 6. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確認める。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊グループで話し合うとき、それぞれどんな役割で、どのようなことに気 をつけて取り組んだかを振り返らせる。					
2学期	11月	4 (話す聞く2)	言葉の広場④ 気持ちを伝える話し方・聞き方 教科書:P28 △言葉にはいろいろな意味がこめられることを 知り、気持ちが伝わる話し方・聞き方について考 える。 ☆学習用語:話し手／聞き手	言語	1	1. 気持ちを伝えるための話し方・聞き方について学習することを知り、学 習の見通しをもつ。 ＊話したり、聞いたりするときの気持ちや態度をどのように気をつければよ いかなどの話し合いを通して、言葉について理解するという学習の見通し をもたせる。 2. 気持ちを伝える「話し方・聞き方」について学ぶという学習内容を理解す る。 ＊言葉(音声)には気持ちをこめることができ、話すときの声の調子、表情 や身ぶり・態度にも気持ちがこめられることを理解させる。 3. いろいろな気持ちをこめて「ケロケロ」と言い合い、言葉にこめられた意 味(気持ち)を考える。 ＊自分で考えたものを相手にスムーズに伝えられるようにするには、どの ような工夫をすればいいか考えさせることで、意欲的に課題に取り組ませ る。 4. 自分が考えたほかの気持ちを友達に「ケロケロ」で表し、何を伝えよう としているのか「あてっこゲーム」をし、伝えたいことをどう表現すればいいの か、何を工夫すれば伝わるのかについて話し合う。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあること に気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理 由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の 構成を考えている。(A(1)イ) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し 合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんで、言葉には考えたことや思ったことを表すはたら きがあることに気づこうとし、見通しをもって、気持ちを伝 えるための話し方・聞き方について考えようとしている。
	2	5. 気持ちの伝え方(伝わり方)を確認め、どのようにすれば相手の気持ちを 傷つけずに自分の意思を伝えられるのかを知る。 ＊どのように話せば、相手の気分を損なうことなく伝えられるかということに ついて考えさせる。 ＊話すときの声の調子(大きさ・速さなど)や表情・視線について体感させ るとよい。					
	3	6. 聞き方を変えて、それぞれ聞いているときにどんな感じがしたか、友達 は話をしている時にどんな感じがしたか、話し合う。 (1) 聞き手は何に注意して聞けばいいのか考える。 (2) 聞き方を変えることで、相手の話しやすさがどう変わるかについて考 える。 ＊聞き手の立場になって、聞き方によって話しやすさがどのように変わる のかを確認めさせる。 ＊聞き手が聞き取りやすくなるような話し方について話し合う。					
	4	7. 気持ちの伝え方や聞き方、言葉以外の表情・態度などについて考える。 ＊自分の気持ちを正しく、わかりやすく伝えるためにはどのようにしたらよ いかを考えさせる。 8. 言葉だけでなく、話す時の声の調子や表情、姿勢など耳からの情報以 外のものも、コミュニケーションの一部となることを理解させる。 9. 学習を振り返る。 ＊言葉の性質やおもしろさ、人と話すときの話し方(気持ちのこめ方など)に ついて、日常生活でも意識できるようにはたらきかける。					

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	2	漢字の広場④ へんとつくり 教科書:P32 △へん、つくりなどの漢字の構成についての知識を得て、漢字を正しく読んだり書いたりする。 ☆学習用語:へん／つくり	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊「へん」と「つくり」について知るという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ＊教師は、本教材がP82『漢字の組み立て』とセットになっていることを踏まえておく。 ＊定着に向けて、本教材と『漢字の組み立て』に掲げられている程度の「偏旁冠脚垂繞構」とその呼び名・字例・語例を順次、教室に掲示していくとよい。 2. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考え、左右の組み合わせからなる漢字の左側の部分を「へん」、右側の部分を「つくり」と呼ぶことを知る。 ＊カードは、どれも、ある漢字の右半分、左半分のものであることに気づけるようにする。 ＊組み合わせでできる漢字を確かめる。 「校」「顔」「読」 ＊漢字には、左右二つの部分に分けられるものがあることを確認する。 ＊左右の組み合わせからなる漢字の左側の部分を「へん」、右側の部分を「つくり」と呼ぶことを知る。 ＊板書や掲示する文字については、へんとつくりとで色分けして示すと理解しやすい。 ＊「木」「言」が部首だが、「顔」は右の「頁」が部首で、左の「彦」は音を表す部分である。本教材では、そこまでの厳密さを求めない。 3. P32の下段の設問に取り組み、気づいたことを話し合う。 ＊どれも「へん」に「言」があることを確認する。 ＊「ごんべん」という名称を知る。 ＊「読書」「音読」「会話」などの語例をもとに、「ごんべん」は、何に関係ある漢字かを話し合う。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(③ウ) 【態度】 ・すすんで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
					2	4. 「きへん」「にんべん」「てへん」の名称を知り、字例、語例などをもとに、それらの意味を考え、話し合う。 ＊字形によって呼び名がつけられている。「にんべん」「てへん」は、もとの漢字が「へん」の部分になるときの字形だということをおさえるようにする。 ＊字例や語例をもとに、それぞれのへんは、主に何に関係ある漢字かを話し合うとよい。 ＊意味に関係なく、字形をめやすとして「へん」とされる字も中にはあるので、おおまかに捉えることにとどめる。 5. 「おおがい」「ちから」「ぼくづくり」の名称と字例や語例を理解する。 ＊字例や語例をもとに、それぞれの「つくり」は、主に何に関係のある漢字かを話し合ってもよい。 ＊「ぼくづくり」は辞典によっては「ぼくによう」とか「のぶん」と呼ぶこともある。 6. これまでに学習した漢字の中から、同じ「へん」や「つくり」がある字を探し、発表し合う。 ＊「へん・つくり」などの構成要素は、既習の単体の漢字であることが多い。それらの画数・筆順・読み方・意味などを想起できるようにし、関連づけて学習できるとよい。 ＊偏旁冠脚の呼び名は、習慣的なものであって、一つに定まっていないものもある。辞典によって違うものがあることを踏まえておきたい。	
2学期	11月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字④ 教科書:P34 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊絵の中にある2年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる教室の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 8. 「わたしは、絵をかいいたり、はさみで紙を切ったりすることがすきです。」を参考にして絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子を文に書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊読み手が理解しやすいように、伝えたいことを明確にして書くようはたらきかける。 9. 絵の中の言葉や漢字を使って、自分の教室の様子を、主語をはっきりさせて文に書く。 ＊二文以上書く場合には、「なぜなら」「その理由は」などの接続の語を提示すると、よりわかりやすくなる。 10. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊表現を改めたり、書きまちがいをなどを正したりして、書いた文を発表する。 11. 学習を振り返る。 ＊「へん」と「つくり」について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(①エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B①ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B②ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	8 (書く2)	三 登場人物のせいかくを考えながら読もう モチモチの木 教科書:P36 □登場人物の性格を考えながら読み、考えたことを伝え合う。 ★ここが大事:登場人物のせいかく ☆学習用語:物語／語り手／気持ち／中心人物／登場人物／場面の移り変わり／場面／主人公／会話／会話文／作	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊登場人物の性格を考えながら読み、考えたことを伝え合うという単元の見通しを持たせる。 <たしかめよう> 2. あらすじをつかみ、登場人物や中心人物、語り手について考える。 (1)主な登場人物を確かめ、その中の中心人物は誰か考える。 ＊会話や行動、気持ちが書かれている人物が「登場人物」であることを確認し、その中でも、最も心情が変化した人物が「中心人物」であることをおさえる。 ＊教科書P52の鳥キャラクターが「地の文を話しているのは、語り手だよ。」と言っているところから、「語り手」についても確認する。 (2)豆太を「おくびょう」だと言っているのは誰かを考える。 ＊教科書P52の鳥キャラクターが「地の文を話しているのは、語り手だよ。」と言っているのをヒントにして、語り手が豆太をおくびょうだと言っていることに気づかせる。 ＊併せて、じさまが豆太をどのような子だと思っているかを想像させる。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					2～4	<くわしくよう> 3. 会話や行動をとおして、豆太の性格を考える。 (1)場面ごとに、豆太の性格がわかる会話や行動をノートに書き抜き、表のようにまとめる。 ＊教科書P55「ここが大事」に着目させ、①「性格」とは何か、②どのような部分に着目すると性格がわかるのか、を確認する。 ＊表のまとめ方は、教科書P52を参考にさせる。 ＊「豆太の会話や行動」は、場面によっては、ひとまとまりの行動として取り上げてもよい。その場合は、叙述を省略して引用する。 (2)その場面の豆太の性格について、自分の考えたことを(1)の表に書いてまとめる。 ＊「考えたこと」は、叙述や豆太の前後の行動をとおして、その理由をはっきりさせるようにする。	
					5・6	<まとめよう> 4. 豆太の性格は変わったのかどうかを考え、自分の考えとその理由をノートに書く。 ＊夜に一人でせっちんに行けない豆太が、物語の最後にも描かれていることから、「豆太は本当に変わったのか」という問いが生まれてくる。変わったと思うかどうか、理由も合わせて考えさせる。	
					7・8	<つたえあおう> 5. 豆太の性格について考え、考えたことを伝え合う。 ＊自分の考えと友達のを比べて、改めて豆太の性格とその変容について考えることで、物語のおもしろさにつなげられるとよい。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の性格を考えるとときに気をつけたことを振り返る。 (2)登場人物の性格について話し合ったことを通して感じたことを振り返る。	
2学期	12月	6 (書く3)	読書の広場③ 「おすすめ図書カード」を作ろう 教科書:P56 ◇「おすすめ図書カード」を作り、本を紹介し合い、さまざまな本を読む。	読書	1・2	1. 自分の紹介したい本で「おすすめ図書カード」を書くという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 2. 今まで読んできた本の中から紹介したい本を考え、読み返す。 (1)「おすすめ図書カード」に書く事柄を確かめる。 (2)本を読む。 (3)おすすめ図書カード」に書く事柄を決める。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・「おすすめ図書カード」を書くという活動に見通しをもち、すすんで今までに読んできた本を振り返って読んだり、図書カード作りに取り組んだりしている。
					3・4	3. 「おすすめ図書カード」を書く。	
					5・6	4. 友達の書いた「おすすめ図書カード」を見て、読みたい本を読み、ひと言感想を書き合う。 5. 学習を振り返る。	
2学期	12月	1	言葉の広場⑤ こそあど言葉 教科書:P60 △指示語のはたらきを理解し、適切に使う。 ☆学習用語:こそあど言葉	言語	1	1. 冒頭の会話文を通して、こそあど言葉について知る。 ＊「こそあど言葉」という名称の理由を説明したり、児童に尋ねたりしてもよい。 2. 教科書を読んで、こそあど言葉のはたらきや形について知る。 ＊こそあど言葉の一覧表を見ながら、指し示す事柄や相手との関係によって言葉が変化することに気づかせる。 3. 絵を見て空所に入るこそあど言葉を考える。 ＊空所にこそあど言葉を入れながら、その言葉が何を指しているかや、話し手と聞き手との距離によって使い分けられていることを理解させる。 4. 教科書を読んで、こそあど言葉が話や文章の言葉や事柄を指すことを理解する。 ＊こそあど言葉が文章中のどの言葉、どの部分を指し示しているのか考えさせる。 ＊こそあど言葉に現場指示と文脈指示の二つのはたらきがあることに気づかせる。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで指示する語句の役割を理解し、学習課題にそって、指示する語句を適切に使おうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	12月	5 (書く5)	心が動いたことを詩に書こう はっとしたことを詩に 教科書:P62 ■身近なこと、想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く。 ★ここが大事:詩を書く ☆学習用語:詩／漢字／詩を書く／たとえる／題名／繰り返し／言葉	書く	1	1. 教材名と二編の詩を読んで、学習のめあてを捉え、見通しをもつ。 ＊身近なできごとや周りの人との関わりの中で、はっとして何かを見つめ直したことを詩に書く学習であることをおさえる。 2. 四月から書きためている「発見ノート」やこれまでに書いた日記などをもとに、心が動いた瞬間について振り返る。 ＊四月に書き始めた「発見ノート」から、話題・題材を探させてもよい。なお、「発見ノート」は、第五単元の『強く心へのこっていることを』で活用できるように設定している。できるだけ活用したい。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ)
					2・3	3. 二編の詩を読んで、書き表し方の工夫や表現の優れているところを見つけ、詩の書き表し方について理解を深める。 ＊「心の動き」「題名の工夫」「たとえ」「繰り返し」「リズム」などについて読み取らせる。	【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ)
					4・5	4. 自分のまわりに目を向けて、はっとして何かを見つめ直したことをもとに詩を書く。 ＊「学校のこと」「家庭のこと」「友達のこと」「観察したり経験したりしたこと」などから、強く心に残ったことを想起して、詩の題材を見つけさせる。 ＊「なぜ、はっとしたのか」を明確に意識させて書かせるようにしたい。 5. 書いた詩について交流する。 6. 題材の選び方や心の動きの表現の仕方など、今回の学習で学んだことを記録する。 ＊「伝え合おう」で交流したお互いの詩のよさを、今後も生かせるように記録させる。 7. ものの動きや様子、自分の心の動きを伝えるために、どのような表現の工夫をしたか振り返る。	【態度】 ・積極的に書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって詩を書こうとしている。
2学期	12月	4 (書く1)	言葉の文化③ ことわざ・慣用句 教科書:P64 △ことわざや慣用句の意味を知り、ふだんの生活の中で使うことができるように、カードを作る。 ☆学習用語:慣用句／ことわざ／伝える	文化	1	1. 教材文を読んで、知っていることわざや慣用句について話し合う。 ＊「ことわざ」と「慣用句」という用語を知り、それらがどのように生活の中で使われてきたのかを考えさせる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ)
					2	2. ことわざや慣用句の意味を、辞典を使って調べる。 ＊「国語辞典」や「ことわざ・慣用句辞典」のような辞典を使って、その用法を調べる。 ※現在では、いわゆる差別表現に相当する用法があることに留意する必要がある。 3. 調べた意味をカードに書き、互いに交流する。 ＊使いやすい大きさのカードを用意しておき、友達どうしで読み合う。または、教室の壁面に掲示するなどして、さまざまなことわざと慣用句があることに目を向けさせる。	【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)
					3	4. ことわざや慣用句を集めて、カードにまとめる。 ＊ことわざや慣用句が使われる場面を考えて、場面や目的に合ったことわざを使って文を作る。 ＊使いたいことわざや慣用句の意味を辞典で調べさせる。 ＊使う場面を考え、状況のわかる短文や対話例を作らせるなど工夫したい。 ＊ことわざや慣用句が正しい使われ方をしているか、友達やグループ内で確かめ合ったり、助言し合ったりするよう促す。	【態度】 ・積極的に、長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
					4	5. 作った文を発表し、交流する。 ＊ことわざや慣用句の意味を確認させたり、自分たちが考えた場面に適した使われ方になっているかどうか、確かめる。 ＊クラスやグループで、最もおもしろい文を選んでよい。 ＊ことわざや慣用句の意味をあてさせるクイズをしたり、日常でそのことわざや慣用句を使ったらカードにシールを貼ったりするなどの活動に広げてよい。	
3学期	1月	2	詩を読もう 夕日がせなかをおしてくる／いちばんぼし 教科書:P70 □音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。 ☆学習用語:詩／様子／音読	読む	1	1. 『夕日がせなかをおしてくる』の詩の題名について、気づいたことを話し合う。 ＊今まで学習した詩(『てんとうむし』など)と比べて、名詞のみではなく文の形式であることに気づくように支援する。 2. 詩の表現する世界や様子がよく伝わるように、一人読みやグループ読み、一斉読みをして、工夫しながら音読をする。 ＊音読を繰り返しながら、「さよなら」のところから三行(二連は四行)が、一文字落ちている表記の工夫にも気づくようにしたい。 ＊その日、一日をたっぷり楽しんだ満足感と、夕日の力強さを音読に表したい。 ＊各連の後半四行を、「太陽」と「ぼくら」に分かれて呼びかけ合うことも考えられる。 ＊二連の四行めを、「ぼくらも負けずに……」と読まないように留意する。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					2	3. 『いちばんぼし』という詩の題名について、気づいたことを話し合う。 ＊「いちばんぼし」を見た経験があるかどうかについて、体験を発表する。 ＊「いちばんぼし」が出る空の様子や星の動きを想像する。 4. グループで詩『いちばんぼし』の世界について感想交流をしてから、「どのように音読したいか」を話し合う。 ＊「宇宙の目」と目が合ったら、どんなことを話しかけてくるか、どんな挨拶をするかなど、自由に想像するようにと助言する。 5. グループごとに音読方法を工夫して音読し、発表する。	【態度】 ・すすんで情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	1月	7 (話す聞く7)	四 調べたことをしりょうにまとめて発表しよう ちいきの行事 教科書:P74 ◇町の行事について、本や動画、インタビューなどで調べ、資料を使って発表する。 ★ここが大事:しりょうを使って発表する ☆学習用語:資料／発表する／インタビュー／パンフレット／取材／質問する／メモ／組み立て／説明／聞き手／順序	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)地域の行事について、グループで調べたことを資料にまとめ、発表するという学習の見通しをもって、「学習の進め方」をもとに学習計画を立てる。 ＊自分たちの町や地域の行事についての関心を高める資料を事前に用意し、関心を高める導入にする。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで話の中心を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、学習課題にそって、地域の行事について資料を使って発表しようとしている。
					2	<決めよう・集めよう> 2. 調べたいことを決めて、くわしく調べる。 (1)グループで調べたい地域の主な行事を決める。 ＊イメージマップなどを活用し、考えを広げさせるようにする。	
					3	(2)決めた地域の行事について調べる。 ＊P75の「インタビューをするとき」を確認する。 ＊本・ちらし・パンフレット、ウェブサイト・動画、インタビューなどさまざまな方法で調べられるようにする。 ＊調査やインタビューの相手先には、教師が段取りをつけておく。児童だけで行ける範囲でも、安全の配慮を十分にする。写真撮影や録音については相手の許可を得るなど、取材のマナーなどについても指導する。 ＊他教科とも関連させるとよい。	
					4	<組み立てよう> 3. 発表計画表を作り、発表の組み立てを考える。 (1)調べてわかったことを確かめ、発表計画表を作る。 ＊発表に使う資料を選び、どのように使うかを考えさせる。	
					5	(2)発表計画表をもとに練習する。 ＊P77の「発表するとき」を確認する。 ＊P79の「大事な言い方」を確認し、意識させる。 ＊資料の見せ方や動画を流すタイミングを考えさせ、発表に生かせるようにする。 ＊機器の操作や資料提示などの役割分担もさせるとよい。	
					6	<話そう・聞こう>(重点) 4. 資料を使って発表する。 (1) 資料を使ってわかりやすく話したり、大事なところをメモを取りながら聞き合ったりする。 ＊P79の「ここが大事」を確認し、意識して発表会を行う。	
					7	<つたえ合おう> 5. 発表を聞いて感想を伝え合う。 (1)聞き手に伝わる発表にするために、資料を使うとき、どんな工夫をしたかを伝え合う。 ＊児童の感想の中から、資料を使うときに大切なことを板書し、整理する。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊聞き手に伝わる発表にするために、資料を使うとき、どんな工夫をしたかを振り返らせる。	
3学期	1月	2	言葉の広場⑥ 文の組み立て 教科書:P80 △主語と述語や修飾語との関係を理解して、文の組み立てを捉える。 ☆学習用語:主語／述語／修飾語	言語	1・2	1. 冒頭の会話文を通して、主語と述語だけでは文意が不明確な場合があることに気づく。 ＊修飾語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 2. 教科書を読み、主語と述語による四つの文型を確認する。 ＊既習の3文型の他に「なにがーある／ない」の文型があることを知らせる。 3. 文の言葉を主語・述語・修飾語に分類し、図で表す。 ＊述語となる動詞によってさまざまな修飾語が必要になることをおさえる。 ＊文をいくつかの部分に分け、主語・述語・修飾語に分類させていく。 4. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、文の組み立てを捉えようとしている。
3学期	1月	2	漢字の広場⑤ 漢字の組み立て 教科書:P82 △かんむり・あしなどの漢字の構成について理解し、漢字を正しく読んだり書いたりする。 ☆学習用語:へん／つくり／あし／かまえ／かんむり／たれ／によ	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊漢字の組み立てについて知るという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 ＊漢字の構成要素は「偏旁冠脚垂繞構」の七つがあり、このうちP32では「偏旁」を扱い、本教材で残りの五つを扱う。 ＊組み合わせてできる漢字を確かめる。 「感」「草」「国」「進」「店」 ＊漢字には、左と右(へんとつくり)だけではなく、上と下や、外側と内側など二つの部分に分けられるものがあることを確認する。 3. P83を概観し、「へん」と「つくり」のほかに、位置によって「かんむり」「あし」「たれ」「によ」「かまえ」などと呼ぶものがあることを知る。 ＊漢字には左右だけでなく、上下の部分に分けられるものがあることを確認し、それぞれ「かんむり」と「あし」と呼ぶことをおさえる。 ＊「かんむり」には、「くさかんむり」「うかんむり」などと呼ばれるものがあり、「あし」には「こころ」と呼ばれるものがあることを確認する。 ＊「たれ」「によ」「かまえ」のように外側を囲むものは、それぞれの部分に位置するかを図示をもとに確認する。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・すすんで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
					2	4. 「くさかんむり」の漢字は、何に関係のある意味をもっているかを話し合う。 ＊「草」「葉」「花」「茶」「落」「薬」「苦」など字例や語例を集めて、それらをもとに主に植物に関わる漢字を集めていると想起できるとよい。 5. 「笛」を例に、「通・宮・原・図・雪・間」の組み立てを考え、話し合う。 ＊組み立てを考え、漢字を上下の二つの部分に分けることができるようになることに重点を置きたい。 ＊「部首」については、漢字辞典の引き方を学ぶ四年上巻で扱う。 6. これまでに学んだ漢字から、二つの部分に分けられるものを選び出し、それがどのような組み立てとなっているかを話し合う。 ＊巻末の『漢字を学ぼう』を参考に選ぶとよい。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	1月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字⑤ 教科書:P84 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊絵の中にある2年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる部屋の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 8. 「まどの外は雪がふっています。母はあみものをしています。」を参考に、絵の中の言葉を使って、絵に描かれている部屋の様子を説明する二文以上が続く文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 9. 絵の中の言葉を三つ以上使って、二文以上が続く文章を書く。 ＊読み手が理解しやすいように、伝えたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ＊続きの文を書くために、「それで」「ただし」「なぜなら」などの接続語を提示してもよい。 10. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 11. 学習を振り返る。 ＊漢字の組み立てについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
3学期	2月	7 (書く2)	五 文章と図や写真を、むすびつけて読もう 川をつなぐちえ 教科書:P86 □段落のつながりに気をつけながら写真と文章を結びつけて読み、考えたことをまとめる。 ★ここが大事: 図と文章をむすびつける ☆学習用語: 筋道／説明する／作／訳／話題	読む	1	<見通しをもとう> 1. 題名や写真、リード文を読んで、本文の内容を想像する。 (1)写真を見てわかることや想像したことを発表する。 (2)文章の題名やリード文と関連づけて、本文の内容を想像する。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)
					2	<たしかめよう> 2. 本文の大体を捉えたり、文章構成を確認したりする。 (1)範読を聞いて、文章の大体を説明する。 (2)本文の文章構成を確認する。 (3)問いの答えを説明するために使われている図について話し合う。	【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)
					3・4	<<わしくよう> 3. 川をわたる知恵について段落ごとにまとめる。 (1)文章構成を確認する。 (2)「はじめ」と「おわり」を読み取る。 (3)「中」の部分について、図や写真と本文を結びつけながら、段落ごとに表にまとめる。 ＊(3)の活動は第3時後半から第4時に行う。	◎「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)
					5	<まとめよう> 4. 自分の考えを明確にする。 (1)見沼通船堀を考えた人たちの知恵について読み取ったことを振り返る。 (2)その知恵について自分の考えをノートにまとめる。	【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア)
					6	<つたえあおう> 5. 自分の考えを友達と伝え合い、互いのよさを語り合う。 (1)自分の考えを友達に伝える。 (2)友達の考えを聞いて、まとめ方や感想の内容について、気づいたことを伝え合う。	【態度】 ・進んで文章と図や写真を結び付けて読むことを通して、学習課題にそって、自分の考えを明確にして友達に伝えようとしている。
					7	<ふり返ろう> 6. 学習全体を振り返る。 (1)段落ごとにまとめるときに気をつけた言葉を発表する。 (2)図と文を結びつけて読むよさについて考えたことを発表する。	
3学期	2月	1	言葉の文化④ 十二支と月のよび名 教科書:P96 △暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り、さまざまな言葉を探して感じたことを書く。 ☆学習用語: 十二支／月のよび名／方角	文化	1	1. 昔から使われている言い方について、自分たちが知っているものをあげる。 ＊昔の言葉が調べられる本や、昔の言葉が出てくる本を用意し、手に取れるようにしておく。 2. 教科書を読み、月や干支の昔の言い方やその由来について知る。 ＊今年の干支や、自分たちの生まれた年の干支を想起させ、課題意識をもたせる。 ＊干支の由来にまつわる民話などを語り聞かせてもよい。 3. 月の言い方や、知っている昔の言葉の意味について辞典や本を使って調べ、新たに知ったことを共有したり比べたりする。 ＊教材文を読んで、暮らしに残る昔からの言葉やその由来について興味をもたせ、どのような場面(カレンダー、古謡の歌詞など)で使われているか探そうにさせる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ) 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り、学習の見直しをもって、今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つけようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	8 (書く8)	六 つたえたいことの中心を明らかにして書こう 強く心にのこっていることを 教科書:P98 ■身近な生活の中から自分に合った題材を見つけ、段落相互の関係を考えながら、中心になる場面をはっきりさせて文章を書く。 ★ここが大事: 中心場面の様子や気持ちをくわしく書く／文章を読み返す ☆学習用語: 場面／伝える／漢字／気持ち／組み立て表／中心場面／始め／本文／様子／中／終わり／読み返す／題名／会話文／会話／直し方／文／意見	書く	1・2	＜見通しをもとう＞ 1. 教材名や本文を読んで、一年間の生活の中で「強く心に残っていることを文章にする」という課題をもつ。そのうえで、「学習の進め方」を読んで学習のめあてをつかみ、見通しをもつ。 ＊教材全体を通読し、学習の見通しをもたせる。 ＊目的意識の設定例: 学年文集やクラス文集にする。 ＊相手意識の設定例: 保護者に配付する、3年生の他クラスと交換する、図書室に置いて全校のみんなに読んでもらうなど。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)
					3	＜決めよう・集めよう＞ 2. できごとを一つ選び、くわしく思い出す。 ＊中田さんのように、特に思い出に残っていることはないかと考えさせ、心配だったことのほかにも「うれしかったこと」「がんばったこと」「悲しかったこと」「悔しかったこと」など、思い出の中にもいろいろあることを話し、題材を広げさせていく。 ＊4月に書き始めた「発見ノート」が活用できるように設定されている。自分の「発見ノート」を見返す楽しさを味わわせたい。 ＊イメージマップを作って、友達にいちばん伝えたい場面について考えさせる。	【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)
					4	＜組み立てよう＞ 3. 中心場面を考えながら、組み立て表を作る。 組み立て表の横軸は「始め・中・終わり」、縦軸は「できごと(時間の流れ)・その時の様子や気持ち」である。 ＊中心にする場面を明確にするため、太線で囲ませる。 ＊5W1Hを提示し、メモ作りのためのヒントにさせる。 ＊必要に応じて家族や友達に取材させるなど、取材時間を十分に取りたい。 ＊メモについて、適宜意見交換の場を設けることで、中心場面をより明確にする。 ＊「その時の様子や気持ち」を簡条書きでよいので、できるだけあげさせる。特に中心場面をより具体的に思い起こさせたい。	【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)
					5・6	＜書こう＞(重点) 4. 組み立て表を生かして、文章を書く。 ＊P100・101の例文を参考にさせる。 ＊協同推敲として、お互いの下書きを読み合って付箋を貼り合う活動を盛り込むことで、「中」の部分をより詳しくさせるとよい。	【態度】 ・粘り強くまちがいを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして文や文章を整え、学習の見通しをもって、思い出に残っているできごとについて文章を書く。
					7	＜読み返そう＞(重点) 5. 中心場面の様子や気持ちが相手に伝わるかどうか、読み返す。 ＊推敲の観点としては、大きく二つのことで、「様子や気持ちがよく伝わってくる」と「更に工夫できる」ところを提示するとよい。 ＊「ここが大事」の観点に即して、適切に読み返させたい。 ＊友達とお互いの下書きを読み合って、よいところや更に工夫できることを付箋で伝え合えるとよい。	
					8	＜つたえ合おう＞ 6. 友達と読み合って、感想を伝え合う。 ＊互いの文章のよい点について伝え合わせる。 ＊表現のよさだけでなく、「組み立て表から本文にどうつなげているか」などの学習過程についても評価させたい。 ＊「実の場での活用」として、保護者に配付したり、3年生の他クラスと交換したりし、感想を書き合ってそれをもらえらと、「書いてよかった」「また書きたい」という気持ちをもたせることができるだろう。 ＊特に、中心場面で工夫したことを交流させる。また、完成した文章だけでなく、メモや組み立て表もあわせて読むことで、学習過程自体についても振り返らせるようにする。 ＜ふり返ろう＞ 7. 学習を振り返る。 (1)「中」の部分の様子や気持ちをくわしく書くために、どんな工夫をしたか振り返る。 (2)どんなところに気をつけて、文章を読み返したか振り返る。	
3学期	2月	2	漢字の広場⑥ 二つの漢字の組み合わせ 教科書:P104 △漢字二字の言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊二つの漢字の組み合わせについて知るとい学習課題を確かめ、漢字の使い方を理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「鉄橋」「岩石」を例に、上と下の言葉のつながりをもとに、漢字二字の組み合わせを考える。 ＊「鉄橋」は「鉄でつくった一橋」と上の漢字が下の漢字に対して修飾している。 ＊「岩石」は「岩」「石」と類義の漢字を並べてできている。 3. 「深海」を例に、「漢字二字の言葉」の読み方と意味を考え、それぞれのつながり方について話し合う。 ＊ここに掲げる「漢字二字の言葉」の構成は、いずれも上の漢字が下の漢字に対して、様子や程度・状態などを説明する関係にあたる。語構成が「修飾の関係」となっている。 ＊上から下に向かって訓で読み下すことが、意味の理解を助けることが体験をととしてわかるようにする。 ＊読み下した意味をもとに、国語辞典で確かめてみる。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)
					2	4. 「田畑」を例に、関係のある漢字を組み合わせでできた言葉を考え、国語辞典で意味を確かめる。 ＊P105に掲げる「漢字二字の言葉」の構成は、上段が類義の漢字を組み合わせたもの、下段が対義の漢字を組み合わせたものにあたる。どちらも語構成が「並列の関係」となっている。 ＊関係のある漢字(意味が似通っている漢字)を選び出すには、これまでの類義語の学習経験を生かすようにする。 5. 「軽重」を例に、反対の意味になる漢字を組み合わせでできた言葉を作る。 ＊互いに対立、または対になる意味をもつ漢字を探すには、これまでの対義語の学習経験を生かすと効果的である。 6. 「川岸」「白酒」のように連濁する言葉を集めてノートに書き、発表する。 ＊二つの言葉が複合することによって、あとのほうの成分の初めの音が濁る「連濁」は、ふだんにげなく使用していて気づきにいが、ここではそれが意識化できるようにする。	【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、漢字二字の言葉の構成について考えようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字⑥ 教科書:P106 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 「赤い屋根の家の前を通って、学校へ歩いて行きます。」を参考にして、絵の中の言葉を使って、絵に描かれている町の様子を文に書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊読み手が理解しやすいように、伝えたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ＊続きの文を書くために、「それで」「ただし」「なぜなら」などの接続語を提示してもよい。 9. 絵の中の言葉や傍線の漢字を使い、「くわしくする言葉」(修飾語)を加えて町の様子を文に書く。 ＊主語と述語の他に修飾語を使って書くようにする。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 10. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 ＊初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよかったかを互いに指摘し合うとよい。 ＊友達が発表した文の組み立て(主語・述語・修飾語)を互いに確認し合うようにする。 11. 学習を振り返る。 ＊二つの漢字の組み合わせについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【言語活動例】 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
3学期	3月	10 (書く2)	七 登場人物について考えたことを手紙にしよう おにたのぼうし 教科書:P108 □登場人物の気持ちの変化を考えて読み、考えたことを手紙にして書く。 ★ここが大事:場面のうつりかわりと登場人物の変化から考える ☆学習用語:文／漢字／物語／登場人物／発表／終わりの場面／始めの場面／性格／話し合う／様子や気持ち／手紙／言葉／登場人物の変化／場面の移り変わり／最後の場面／場面／物語の内容／作	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊登場人物の気持ちの変化を考えて読み、考えたことをおにたへの手紙にして書くという単元の見通しをもたせる。 ＊教科書P120の鳥のせりふも併せて確認する。 <たしかめよう> 2. 中心人物のおにたについて、感想をもつ。 (1)主な登場人物を確かめる。 ＊登場人物とそれぞれの関係を確認しておく。 (2)中心人物のおにたについて、最初の場面から想像できるおにたの性格を考える。 ＊『モチモチの木』の学習を活かして、おにたの行動や会話に着目して考えるようにする。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)
					2～8	<くわしくよう> 3. 物語を読んで、おにたの気持ちの変化を想像する。 (1)まことの家にいるときのおにたと、女の子の家を見てからのおにたの様子を比べて、どんな違いがあるか話し合う。 ＊様子の違いやせりふの違いがわかるところに線を引いて考えさせるとよい。 (2)おにたが、女の子の前から急にいなくなった、きっかけとなったところはどこかを考え、その時のおにたの気持ちを想像する。 ＊様子の違いやせりふの違いがわかるところに線を引いて考えさせると良い。 ＊教科書P122の「言葉」は、学習活動の中で適宜取り扱う。 <まとめよう> 4. おにたの性格や気持ちのうつり変わりをもとに、女の子の前からいなくなったおにたについて考える。 (1)おにたは、なぜ「角かくしのぼうし」を残して、女の子の前からいなくなったのかを考え、自分の考えをノートに書く。 ＊教科書P123「ここが大事」を確認する。 ＊おにたにとって、角かくしのぼうしには、どのような意味があるのかを考えさせる。その上で、角かくしのぼうしを残していなくなってしまったおにたの思いを想像させるようにする。	【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで登場人物の気持ちの変化について考え、学習課題にそって考えたことをもとにしておにたに手紙を書き、友達と伝え合おうとしている。
					9・10	<つたえあおう> 5. いなくなったおにたに宛てて手紙を書き、友達と読み合う。 (1)おにたがいなくなってしまったことについて、思ったことをノートにメモし、発表する。 ＊「どこかへ行ってしまった」と考えるか、「豆になった」と考えるかによって、手紙の内容が変わるかもしれない。いずれにしても、いなくなったおにたについてそれぞれの立場で感想をもち、その立場に基づいて手紙を書くようにする。 (2)読んで思ったことを手紙にしておにたに書き、友達と読み合う。 ＊最初の場面からおにたが消えてしまった場面まで、もう一度おにたについて思いをめぐらせながら、手紙を書かせる。 ＊手紙というと、「どうして、～のですか。」のような質問形式が多くなりがちである。「どうして」の箇所は、自分なりに想像してうめさせるようにする。問うのではなく、自分で考えるようにさせる。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物に手紙を書くときに気をつけたことを振り返る。 (2)友達と手紙を読み合って、気づいたことを伝え合う。	
3	3月	2 (話す聞く・書く1)	国語の学習 これまで これから 教科書:P124 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	書く	1	1. 1年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 ＊上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。挿絵やふきだし、「三年生で学ぶこと」を参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 ＊心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 ＊友達の発表を共感して聞き、交流し、学んできたことを共有できるようにする。	【知識・技能】 ○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
					2	2. 4年生になったら、1で出し合ったことがどのように広がっていくのか想像したり希望を出し合ったりする。 ＊4年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合うようにする。	【態度】 ・積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。